

うちの「宇宙の学校」

いわて「宇宙の学校」

岩手／阿部恵彦

もうすぐ70歳にならんとする者が、いつまでも日本宇宙少年団水沢2分団長として前面に出ていることは、後継者の出番の妨げとなり分団活動の継続・発展に好ましくないと考えていた折りに地域の区長職がかぶさりました。そこで、これを機に分団長職を退き50代のリーダーにバトンタッチして3年目。初代・横山統一（国立天文台水沢観測所長）分団長（8年間）からバトンを引き継いでの11年間、多くの方々のお力添えに感謝をしながら退任しました。

地域の区長職を卒業した一昨年、的川泰宣先生からの求めに応え、子ども・宇宙・未来の会『宇宙の学校』に携わり、岩手県内での実施施設の開拓に着手しました。

着手1年目の開拓は、地元の奥州市内にはたらきかけ、4会場（水沢校（奥州市立佐倉河幼稚園）/胆沢校（社会福祉法人愛育会・胆沢保育園）/南都田校（南都田地区振興会）/若柳校（若柳地区振興会））で開校することができました。

本県初としての開校は、KU-MAの先生方や事務局の献身的なお力添えによって輝く成果がみられました。特筆すべきは、幼児教育施設でのスクーリングは、父親・祖父母・保護者参観日に抱き合わせて実施したことが効果的であったことです。

この実績を基にしての着手2年目は、奥州市外にもはたらきかけて開拓した結果、4会場での開校となります。

父親の興味深々の顔、母親の真剣な顔、お爺さん・お婆さんの明るい顔、子どもたちの好奇心が燃え輝く姿がみられたスクーリング。家庭内で本質的なふれあいを持った姿が見て取れた家庭学習発表。やってよかったとの主催した方々の喜びの姿。

家族一緒の「宇宙の学校」は、子どもにとっての教育環境の耕しでもあることを実感したし、心あられる体験となりました。大人が変わると子どもも変わる。家庭が明るくなると子どもは伸びる。全国津々浦々の家庭に学びの灯を点す「宇宙の学校」の継続・発展を願い、宮澤賢治の言葉を心に刻み、共に歩んでいきたいものです。

宮澤賢治のことは・・・

「まづもろともに
かがやく宇宙の微塵となりて
無方の空にちらばろう」

■今年度は下記4校の開催支援をして下さっています！

奥州みずさわ校（奥州市立佐倉河幼稚園）/奥州いさわ校（奥州市教育委員会）胆沢区内3会場統合し区内全域に拡大 /紫波校（紫波教育委員会）/一関ひがしやま校（一関市立げいび幼稚園）

阿部恵彦さんは、数年前に別のご縁で初めてお会いした時から、素晴らしい人だと直感しました。KU-MAの「宇宙の学校」を岩手で———と思ったとき、迷わず奥州市のご自宅を訪ね、心にあることをまっすぐに吐き出したところ、正確に想いを理解していただき、すぐに驚くべき行動力で開拓していただきました。雪見酒の中の素敵な思い出です。（的川 泰宣）

「宇宙の学校」と教材Ⅱ

教材開発の背景にあるもの

副会長 遠藤純夫

「宇宙」といって、ずっと遠い、未知の世界を想像しがちです。子どもたちも遠く、寒く、暗いところ、「身体がふわふわ浮いて、自由に動き回れるところ」、「空気が無いところ」などのイメージがあるようです。

どうやら、自分の住む地球以外を宇宙と思っているようです。しかし、私たちの日常そのものである太陽の光、大地、重力、大気、朝と夜を繰り返す時間、そして地球そのものも宇宙です。そして、私たちと共に、この星の「いま」を生きているたくさんの方々の存在も宇宙の中の「コマ」です。

ビックバンから始まったといわれる宇宙は137億年という時間と果てしなく広がった空間だとすると、子どもの宇宙はどうでしょう。6歳の子どもの世界は、その時間の経過と空間の広がりは、お母さんの膝の上から家庭、近所の公園、学校を中心とした地域、そしていつも見慣れた山や川の風景、これらが子どもの地平であり、宇宙を語る第一歩となるはず

です。
こどもの周りの不思議に気付かせ、関わる中で「知的好奇心」「冒険心」「匠のこころ」に灯を点け、子どもの地平を広げていくという思いが宇宙の学校の教材の背景にあるのです。

KU-MA とわたし



「子育てつむぎ」
理事 菊地涼子

KU-MAの会員になったのは、設立の際に的川泰宣先生から手紙をいただいたのがきっかけです。宇宙教育を通じて子どもたちの未来を拓くという理念に賛同したことが、テレビ局に勤めていた時に宇宙関連のプロジェクトやニュース解説的川先生に大変お世話になりました。今度は自分がお役に立てればとの思いで参加しました。意気込んでみたものの、「宇宙の学校」とはどのようなものか、何をしたらいいか、がわかりません。半年ほどして、傘袋ロケットやスチール凧を作るスクーリングの手伝いをしたり、子供たちに話をしたりする機会をいただきました。しかし、肝心の「宇宙の学校」がどのようなものか、依然としてよくわかりませんでした。場所が、科学教室の一部であったり、私立小学校の課外授業であったりまた、家庭学習用の教材の中には、「宇宙」と直接結びつか

なざぞうな、例えば「アイスクリーム作り」があったり。宇宙といえば星、地球、ロケット：と連想が超特急で飛んで行きました。それがKU-MAに関わるうちに、森羅万象、あらゆる事象は宇宙に帰結する…と連想が各駅停車になったように思います。「学校」の解釈も広がりました。「宇宙の学校」ではまず「スクーリング」にみんなが集まり、刺激を受けます。家に帰って親子で興味のある教材に取り組み、一緒に発見したり工夫したりするうちに親子に「何か」が残ります。全部合わせてKU-MAの「学校」。パンフレットに書いてあるよ、と言われてしまいがちですが、私には文書だけでは十分な理解が難しいようです。子育てが同時進行だったことも、理解の助けになりました。



近隣の自然の中で、子どもが虫や魚や草花と触れ合うためのボランティア活動をして下さる団体があり、親子で多くを学ばせていただきました。よい経験になりました。一人息子ももうすぐ十一才。親と学ぶよりも社会の中で学ぶことが多くなってきました。少しさみしいやら、ほっとするやら。親子で共に学ぶ貴重な時間のお手伝いを、今後もKU-MAで続けていければ幸いです。

総会および懇談会のご報告

今年度の総会は、六月十二日に三十二名の会員の出席により開催され、事前にお送りした資料に沿って、各議案が審議され承認を得ました。

引き続き懇談会では、テーマが異なる五つの分科会に分かれ、それぞれの現状の課題を共有し、それを解決するためのアイデアを出し合っていたいただきました。

各分科会のテーマは、今年度、事業計画の「宇宙の学校」事業/教育CSR事業 広報・普及事業/組織運営の基盤の強化 会員の活動参加の五事業としました。

ここで話し合われた結果は、中級者のページにその要旨をまとめましたが、今後の活動にそれを具体的に活かしてゆくことが肝心であると、強く感じられます。

参加されなかった皆さまも、現状でのKU-MAが抱えている課題をご理解いただいた上で、より良い活動に向けて積極的な参画、ご支援、ご助言をお願いいたします。

尚、懇談会の後は場所を変えて、沖縄料理の店「楽園」にて懇談会を行い、ぎゅぐゅらんな意見交換・ここだけの話等々に花を咲かせ、鋭気を養って帰路につきました。

これまで参加する機会が無かった皆さまも、是非一度足を運んでいただき、総会・懇談会・懇親会のフルコースをご堪能ください。